



TITLE:

# 第10回京都大学医療技術短期大学部健康科学集談会抄録 6. 高齢痴呆者は日中をどのように過ごしているのか?～老人保健施設の非痴呆者との比較

AUTHOR(S):

山田, 孝

---

CITATION:

山田, 孝. 第10回京都大学医療技術短期大学部健康科学集談会抄録 6. 高齢痴呆者は日中をどのように過ごしているのか?～老人保健施設の非痴呆者との比較. 京都大学医療技術短期大学部紀要 2000, 20: 80-80

ISSUE DATE:

2000

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/49719>

RIGHT:

## 6. 高齢痴呆者は日中をどのように過ごしているのか?～老人保健施設の非痴呆者との比較

山田 孝  
(作業療法学科)

はじめに

作業療法(以下 OT)は慢性障害者の生活の質を高めるために始まった。OT が生活の質を高めるかどうかを検討するには、障害者の生活の実態を知る必要がある。筆者らはこれまで、老人保健施設(以下、老健)入所の片麻痺患者の生活を 9 時から16時まで分単位で観察し、「ほんやり」「うとうと」として過ごす時間が長いことなどを明らかにし、OT は様々な活動を提供する必要があると提言した。本研究では、老健の痴呆入所者が日中をどのように過ごしているのかを観察し、非痴呆入所者の結果と比較し、検討を加えた。

方 法

対象 秋田県内の 3 カ所の老健に入所中の高齢者50名を対象にした。痴呆の有無は、OT を含む職員の協議(入所および継続入所判定会議)により判定した。痴呆(以下 A)群は男性 5 名(平均年齢85.0, SD 4.30歳), 女性33名(平均年齢82.2, SD 6.19歳), 合計38名(平均年齢82.6, SD 6.01歳)で、非痴呆(以下 B)群は男性 4 名(平均年齢85.8, SD 6.95歳), 女性 8 名(平均年齢84.0, SD 2.67歳), 合計

12名(平均年齢84.6, SD 4.29歳)であった。

手 続 き

9 時から18時までの日中を15分間隔で区切った行動観察表を作成し、対象者が①いた場所, ②取っていた姿勢, ③他者の存在の有無, ④行動を含む状態の 4 点を記録した。観察は職員の介入が最も手薄な日曜日に実施した。観察結果はコード化し, 15分毎の回数で集計し(回数に15をかけると時間になる), 統計的検討を実施した。

結 果

HDS-R は A 群平均が8.7 (SD 5.38), B 群平均が24.3 (SD 2.99) で, 両群間に0.005% 以下で有意差が認められた。単独行動は A 群で11回, B 群で12.3回, 他者が周りにいる中での行動は A 群20回, B 群17.2回で, いずれも有意差はなかった。観察をコード化した結果, ①睡眠, ②食事, ③身の回りの用事, ④家事, ⑤移動, ⑥会話, ⑦教養的活動, ⑧マスメディアとの接触, ⑨休憩の 9 つの作業に分類ができたが, B 群よりも A 群に頻回に観察されたのは, ①, ②, ③, ④, ⑤で, 逆は⑥, ⑦, ⑧, ⑨で, このうち, ①, ②, ⑥, ⑧の 4 つで両群間に有意差を示した。

考 察

本研究の結果から, 老健の痴呆入所者の日中の生活には, ①集団の中の孤独, ②睡眠が長い傾向, ③食事に時間をかける傾向が伺えた。